

前回地域医療構想に関するワーキンググループにおける主な意見

議題①：地域医療構想調整会議における議論の進捗状況について（その7）

- 議論の進捗の状況を見ると、プランの合意済みの割合が増えており、順調に進んでいるように見えるが、前回の構成員の方から、プランが合意済みであっても十分な協議がなされていないのではないかという懸念も示されていた。中には、ほとんど協議らしい協議が行われずに、特段の異論がないことから、プランの合意済みとされているものではないかという懸念もある。この資料だけでは、公・民の役割分担等が十分に考慮されて、その構想区域における地域医療構想にそぐわしいプランとして合意されたのか否かがわからないような状況である。そういった公・民の隔てなく合意されたプランが、その構想区域の地域医療構想に資するものになっているかどうか、検証するようになる必要がある。そのためには、プランの検証が可能となる一定の指標も必要。合意の検証に当たって、そういった整理すべき点についても整理していく必要があるのではないか。
- 調整会議で具体的な方針が決定した後でも、見直す必要が生じた場合には、再度協議するということがあった。このプランが一応協議されて、具体的に通ったとしても、必要があれば再度見直しの議論をするということ。

議題②：地域医療構想調整会議の活性化に向けた方策（その4）

- （慢性期と報告した病棟の転換意向について）転換予定なしは転換予定ありの倍ほどの数になっているということを考えますと、今後のこれは大変に転換がどういう形で進んでいくかと気になるところ。情報の提供をまめをお願いしたい。

全体を通して

- 地域医療構想調整会議は、一つは県の主導でもって2年を目処に地域で議論を重ねているが、都道府県によっては、その進行を早めることに重きを置いているところがあり、地域医療構想調整会議の中で多数決で進行させるという話が出ているところがある。この会議自体は、地域の実態を十分に周知した上で、自主的に機能を集約させるための議論を重ねるということが目的であり、このようなことが行われると、少しそれがゆがんだ形になりはしないか、違和感がある。

（以上）